

炭疽菌事件

2001年の9/11テロ直後の9月末から10月初めにかけて郵便物に粉末状の炭疽菌が同封された手紙が、米国内の上院議員やテレビ放送局、新聞社へ送られ、死者がでた事件をご記憶だろうか。この事件がアフガニスタンやイラクへ侵攻する大きな動機になり、世界中が米国の行動を手放しで容認することになったのである。FBIは、犯人は精神病を患った研究者であるとして結論づけた。しかし、犯人は本当に孤独な精神病患者だったのだろうか

序文

2001年9月11日にニューヨークを襲った前代未聞のテロ事件から、早くも4半世紀が過ぎようとしている。航空機4機を使い国際貿易センタービルを崩壊させたこの事件は、未だに人々の記憶に残っている。然しその後起きた「炭疽菌事件」は、ややもすると忘れられつつあるのではないだろうか。だが、「炭疽菌事件」は後の米国の行動に大きな影響を与えた点で非常に大きな意味をもつ。しかも、その解決に至るまでの過程が、疑惑に満ちていたことから、今日改めて見直すことに意義があると考えられる。

2024年はロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻の影響を受け、世界全体が不安定化に向かっている。このような情勢下では様々な世論操作が行われることに注意しなければならない。何が真実であるのか市民は判断しなければならない。炭疽菌事件はその良い手本となる。

ヘンリー・A・キッシンジャーはその著書「外交」(1994)の中でつぎのように述べている。「今世紀になって三度アメリカは自国の価値観を広く世界に適用することによって新しい世界秩序を建設する意思を表明した。」その三度とは第一次大戦、第二次大戦、そしてその後継に繰り広げられた冷戦であった。21世紀に入ってから米国は四度目の試みを行なっている。それを米国は「テロとの戦い」と位置づけた。

米国は自由と民主主義に最高の価値観を与え、その実現を理想として掲げながら、実は理想と反対の行動を取り続けてきた。自由と人権を全ての人々に与えようと約束しながら、人々を裏切り、大量に殺戮し、恐怖を撒き散らした。第二次大戦後、米国はベトナム、アフガニスタン、イラクと戦いを繰り返し、それぞれの国で理想の実現と言う名の下に多くの人々を殺した。

また米国は国家の目的を達成するためには、他の国々がどう思おうと構わず、また、国内で反対する人間がいればその口を封じてでも目的を達成しようとした。

例えば嘗て米国にマッカーシー旋風が吹き荒れた。多くの人々が『共産主義者』というレッテルを貼られ、重要なポストを追われ、チャーリー・チャップリンのような俳優までもが国外に逃れざるを得なかった。共産主義に対抗するという名目で育成した産軍共同体が巨大化しすぎたために、その弱体化を図ったジョンF.ケネディは1963年にダラスで凶弾に倒れ、今も尚犯人が誰であったのか明かになっていない。彼は闇の手により葬られたのだと多くの人々が信じている。

2001年9月11日、米国民と世界の人々を震撼させた同時多発テロが起こり、3千人あまりの人々が犠牲となった。米国は直ちに対策を検討始めたが、その中には個人の人権を阻害し民主主義を危うくする要因が含まれており、しかも対策費用の額は大きく国家財政に非常に影響するものであった。国内の議論は沸騰し、議会では慎重論が形成されつつあった。

米国上院ではPATRIOT法と呼ばれるテロ対策の法律が審議されていて、トム・ダッシュ

ル上院議員は法案の審議に慎重な態度を取っていた。また、法務委員会議長のパトリック・リーヒー上院議員は、ブッシュ政権がテロリスト法案に関する合意を破ったと非難していた。一方ブッシュ政権はアルカイダへの対抗策を実施するために PATRIOT 法の成立を急いでいた。このような状況のもとで炭疽菌事件が起こったのである。

テロ事件後の9月後半からラムズフェルト国防長官やアッシュクロフト司法長官は、引き続きテロリストが米国を襲う可能性が高く、次のテロには生物化学兵器が使用されるだろうと示唆していた。その矢先、9月末から10月初めにかけて実際に炭疽菌入りの郵便が新聞社や上記二人の上院議員事務所に送られ、5人が亡くなり、17人が発症した。

炭疽菌事件解決の糸口も見えない2001年11月に PATRIOT 法は可決された。ブッシュ政権はこの法案が可決されることを予期しつつ、2001年10月7日にアフガニスタン攻撃に踏み切っていたのである。

FBI は直ちに炭疽菌犯人の捜索にかかった。さなぎまな捜索の結果、2007年になって驚くべき事に炭疽菌の出所は米軍の研究機関 (USAMRIID) であることが判明し、RMR-1029 と名付けられた菌株が手紙で送られたものであると断定した。

そしてこの菌株を育て保守していたブルース・イビンス博士が犯人であるとの嫌疑を掛けられたが、逮捕に至る前の2008年7月29日タイレノール (鎮痛剤) を大量に飲んで自死しているのが発見された

FBI は 2010 年 2 月 19 日付けで捜査報告書 (AMERITHRAX INVESTIGATIVE SUMMARY) を発表し公式に捜査を終了した。

本書はこの事件の始まりから終りまでを追って書いたが、硬く長々とした記述が読者を飽かせてしまうのではないかと恐れている。しかしながら敢えてここに発表するのは、筆者から見て、

- 9/11 のテロ事件に端を発し、炭疽菌事件がおこり、世論をアフガニスタン侵攻、イラク進攻へと動かしたことに、陰謀の匂いがすること、
 - イビンス博士が犯人であると結論づけた FBI 報告書に納得が行かないこと、
- から、読者の方々の判断を仰ぎたいと思ったからある。